

**「いわて公共建築フォーラム 2008」開催**  
テーマ ～もっと身近に公共建築～ “地震と公共建築”

**建築住宅課**

平成20年11月7日、岩手県と岩手県公共建築設計監理協会の主催により、公共建築月間のイベントとして「いわて公共建築フォーラム2008」を開催しました。

東北でのフォーラム開催は、国土交通省東北地方整備局と岩手県の2機関だけです。

当日は、建築関係者のほか、一般の県民の方々や県立盛岡工業高等学校建築科2年の生徒の皆さんなど約180人が参加。会場の県民情報交流センターアイナホールは、熱心な聴講者で埋まりました。

講演に先立ち主催者のあいさつを行い、はじめに佐藤県土整備部長が、「6月14日の地震に際しては、建築士のみなさまに迅速に対応していただき感謝したい。今日は、先人たちから引き継がれてきた建物づくり・まちづくりについて、地震と公共建築をテーマにして皆さんとっしょに考えていきたい」と述べました。



主催者挨拶 佐藤県土整備部

次に岩手県公共建築設計監理協会の高橋会長が「公共建築はまちづくりの重要な要素であり、役所の建物ばかりでなく、みんなが利用する公共性のある民間建築も含めて公共建築を考えていきたい。近々に予想される宮城県沖地震への対処を今から準備しなければならない」と述べられました。



岩手大学工学部建設環境工学科  
山本 英和 准教授

第一部では最初に、「地震に備える 岩手・盛岡ゆれやすさマップの紹介」を演題に、岩手大学工学部の山本准教授が講演しました。

先生は、これまでの日本における地震の歴史や地震発生メカニズムを解説したあと、自身の研究テーマである「県内や盛岡での震度分布や住民のアンケートによる揺れ体感」について細かく説明しました。

このなかで、震源地から遠いところでも震度が大きい場合があること、また、県内では北上川流域や藪川周辺、県北二戸地域などで震度が大きくなる傾向にあることを説明

しました。また、盛岡市では、岩手山に近い市の北西部で揺れが大きく、火山灰堆積の表層地盤の影響を指摘し、事前にゆれやすい地域を知っていることが、防災対策に役立つのではないかと結びました。



次に、県の建築行政における耐震への取組みについて鈴木技術参事が説明しました。

最初に、H20 岩手・宮城内陸地震における建築物の被害状況について説明したあと、「岩手県耐震改修促進計画」をもとに地震対策の必要性を訴えました。

このなかで、木造住宅や学校・庁舎等の公共建築の、平成27年度における耐震化率の目標値を具体的に示しながら、かならずしも順調とはいえない県・市町村の取組みについて、もっと強力に推し進めていきたいと決意を述べました。



建築住宅課 鈴木技術参事兼総括課長

休憩を挟んで、第二部は、耐震設計の事例紹介として3人の講師が登壇しました。

㈱日本設計の坊野主任技師は、盛岡東警察署新築工事における免震構造について紹介しました。免震構造とは、建物をゴム製の免震装置で支え、地盤の揺れが建物に伝わらないようにする構造であり、盛岡東警察署の工事では、敷地が岩盤のため地下への設置をあきらめ1～2階の中間階免震構造としたことを実際の工事写真を交えながら解説しました。

このほか、同事務所が手がけた「県立美術館」「県民情報交流センター」について紹介しました。

㈱地域環境計画の菊池所長は、県立福岡高等学校校舎の耐震補強工事について紹介しました。福岡高校は、校舎に余裕が無く、内部での作業が制限されることから、外部から補強が可能な平行工法を採用したことについて説明しました。この工法は、外部に建てたPC柱と現場打ちの重力式鉄筋コンクリート基礎をワイヤーで緊張する工法で、土木工事の斜張橋を思わせるような姿はとても美しく、会場の注目を浴びました。

遠野市で設計事務所を開設している佐々木博満所長は、木造の学校建築について紹介しました。遠野市は、周囲を山で囲まれた盆地であり、民話の地としても有名ですが、佐々木所長は、20年以上前から建築士会の活動を中心に遠野らしさを追及しており、当時の建設省補助事業のHOPE計画（地域住宅計画）の理念や、地場産材である木へのこだわりについて熱く語られました。

この考え方を取り入れた自作品の小中学校建築を映像で紹介しながら、木造建築や大断面構造の魅力についても語られました。





最後に、建築住宅課が「わがまちの誇れる公共建築」と題して、各振興局建築指導課の協力を得て募集した、現代建築から歴史的建築まで、地元に住んでいると見逃しがちな魅力的な建築物を映像で紹介しました。

映像の収集は、昨年に引き続き取組んだものであり、今後も、地域に眠っている素晴らしい公共建築が県内各地にまだまだあることを、広く県民に紹介していきたいと考えています。

会場前のホワイエでは、さまざまな企画展示を行ないました。

上記の「わがまちの誇れる公共建築」と岩手県公共建築設計監理協会会員の建築士による作品パネルの展示コーナーでは、個性的な展示パネルが多く並び、講演が始まる前や休憩時間には、熱心に見入るひとたちでにぎわっていました。

また、10月に大船渡工業高校と岩谷堂農林高校で行われた「高校生による建築工事現場見学会」の様子も展示しました。



「高校生による建築工事現場見学会」紹介



「わがまちの誇れる公共建築」写真展



「公共建築」をテーマとした会員作品展



(社) 岩手県公共建築設計監理協会の展示

【記事担当：建築住宅課営繕担当 平野 晴江】